

今日は5組担任の先生より、生徒のみなさんへ「敷中エール」をお届けします

2年 5組担任 篠原 大志

こんにちは。臨時休業をどのように過ごしていますか。学校があってもなくても、変わらないものがあります。「将来のために今なにができるか」です。そう考えると、学校がない今だからこそできることがあるはずです。今までにたくさんの先生方がアイデアを与えてくれています。それをヒントに考えてみてください。自分で必要なことに気づき、考えて行動する力は、中学校生活はもちろん、大人になっても成長し続ける力になります。次に学校に来た時に「こんなことができるようになった」「こんなことが習慣になった」などの成長の報告を聞くことができるのを楽しみにしています。

我慢しなければならないことが多く、思うような生活ができていないことに気持ちモヤモヤしている人もいるでしょう。しかし、下や後ろばかり向いては余計に気がめいってしまいます。前向きに、将来のことを考えて、今できることに取り組んでみましょう。お互いに頑張りましょう。



3年 5組担任 奥脇 美香



みなさん、元気ですか。どんなふうに過ごしているでしょうか。不自由な日々かも知れませんが、唯一、自由なもの、それは、「心」ではないかな、と思います。

最近、ふと目にした言葉にこんな言葉がありました。「奪われたと思って過ごすのか、与えられたと思って過ごすのか」という言葉です。最近の私は、あれも出来なくなった、これもなくなった、ということに目を向けがちでした。でも、嘆いて過ごすのも、プラスのことを見つけて過ごすのも、どちらも同じ1日。状況を魔法使いのように一瞬で変えることはできないけれど、すこしずつ、心を変えていくことならできそうかな、と思ったのでした。

こんな時だから、出来ること、当たり前ではなくなったからこそ気づけたこと、そういったことに目を向けながら過ごしてみようと決めました。

俳句や短歌で有名な正岡子規の連作に「足たたば(もし、私の足が立つのならば)」で始まる9首の連句があります。長く病に伏し、寝たきりになりながらも多くの歌を残した正岡子規。彼は亡くなる13時間前まで俳句を詠んでいました。たとえ不自由な状況でも、歌を詠もうとする子規の心の強さに感服すると共に、想像する心、創造する心には制限がないんだな、心は自由だなあ、と、感じるのです。

足たたば北インチャのヒマラヤのエヴェレストなる雪食はましを

足たたば新高山の山もとにいほり結びてバナナ植糸ましを

足たたば黄河の水をかち渡り華山くわざんの蓮の花きらましを

何を考えるのか、何をするのか、それを決めるのは自分。心は自由。そう思って過ごしています。

学校が始まり、みんなに会えるのを楽しみに待っています!